

対象	小学校高学年以上
教科	国語科
該当 単元	小学6年～ 語彙力を付ける
教科書	
掲載日	2019.6.27. 朝刊 豊田版 11版

景観維持

地主の負担軽減

生きがい

「三方よし」の試み 結実を

豊田の耕作放棄地で野菜や花

豊田市百々町の耕作放棄地だった畑で、市民有志が野菜や花を育て、販売収益の一部を地主に還元する取り組みを進めている。耕作者不在の農地が全国で問題になる中、景観維持、地主の負担軽減、参加者の生きがいづくりの「三方よし」の活動に、地元のお年寄りたちが汗を流している。

(久野賢太郎)



畑の周りに咲くユリの手入れをする坂木さんと穴水さん＝豊田市百々町で

県道沿いに広がる約千六百平方メートルの畑の周りに、白や黄色、オレンジ色のユリの花が競うように咲き乱れる。畑には野菜がすき間なく植え

住む元トヨタ自動車社員、坂木敏成さん（左）ら五人。坂木さんと一緒に市内で竹炭を作る活動をしている小坂本町の元東映社員、穴水充さん（右）が二〇一二年末ごろ、知人を介し所有者からこの土地の相談を受けた。

穴水さんは坂木さんらと荒れ果てていた土地で雑草取りから始め、現在ではニンジンやハクサイ、スイカやメロンなどさまざまな野菜や果物が育つ畑になった。

景観をさらに良くしようとして、三年ほど前からあぜの部分に花を植えている。春先にはシヨウブ、初夏はユリ、秋にかけてはキクを育てることで、県道から色とりどりの花を楽しむことができ、多くの人が足を止めて見ていくという。

穴水さんは「土いじりで体を動かせるし、花で景観が保たれる。野菜は売ってお金に換えて、経費を引いて所有者に渡せば、固定資産税の足しにもらえる」と胸を張る。メンバーは今後も活動を続ける考えで、坂木さんは「自分たちのやりがいも大きい。体力が続く限り、ここで頑張りたい」と話した。

い。管理しているのは、近くに

問1：耕作放棄地とは、どんな土地でしょうか。

耕作者（ ）の農地

問2：「三方よし」の三方について、文章中からあてはまる言葉を抜き出しましょう。

○管理している（ ）は、野菜や花を育てることが生きがいになっている。(漢字4字)

○（ ）は、管理者から収益が還元され、税負担が軽くなっている。(漢字2字)

○（ ）は、色とりどりの花を楽しんでいる。(4文字)

問3：「三方よし」について、言葉の由来を調べてみましょう。



発展：「三方」のつく言葉として「三方一両損」があります。意味を調べてみましょう。



【活用にあたって】

我が国の言語文化に関する事項の一つに「語句の由来などに関心をもつ」ということが挙げられています（平成29年告示 小学校学習指導要領）。新聞記事中の言葉は、語源や、その言葉がどのようにして伝わってきたのかを調べるきっかけになることがあります。

言葉の意味については、言葉の前後の内容から、あるいは文章全体から意味を推定した後で、国語辞典で調べるように心掛けると読解力が付いてきます。語彙も豊かになってきます。面倒かもしれませんが、辞書を引くという^{ひと}手間を惜しまないことが大切です。

解答例

問1：不在

問2：市民有志・地主・多くの人

問3：近江商人の心得です。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の3つの「よし」のことです。どうして三者が「よし」なのか調べましょう。

発展：「立場のことなる三者が少しずつ損をして、結果としてうまくおさまること。」（三省堂国語辞典 第7版）。落語・講談からできた言葉です。言葉の由来も調べたいですね。